

○子どものいる家庭の医療費負担の軽減や、子育て世代の労働環境・福利厚生生の改善

などに取り組み、「誰もが安心できる暮らしやすいまちづくり」を推進してまいります。

そして、環境分野では、美しい山・川・海・水を次代に引き継いでいくため、

○ごみの減量化やリサイクルの推進のほか、不法投棄対策、肝属川の水質浄化などの自然・環境保全対策の推進

○自然と共存する環境にやさしい産業構造への転換などに取り組み、健全で安全な地域づくりを進め、「自然と環境を大切にふるさとづくり」を推進してまいります。

加えて、地域の次代を担う人材を育成するため、

○子どもたちが安全で安心して学べる教育環境の整備・充実

○国際社会に対応でき、郷土を誇れる国際性豊かな人づくり

○地域経済の活性化に必要な活力ある地域産業を担う、意欲と能力のある担い手の育成

○女性、若者等が能力を活かし、活躍できる地域社会の構築

など、「未来の郷土を担う人づくり」に取り組み、「地域が輝く市政」を推進してまいります。

このほか、広域行政の取組として、鹿屋市は大隅定住自立圏の中心市であり、地域全体の発展を牽引していかねばならないことから、

○東九州自動車道などの高速交通体系の整備促進

○各市町の観光資源等の連結による交流促進

など、4市5町一体となった「人・モノ・情報を結んだ付加価値の高いネットワークづくり」に取り組み

など、「大隅がひびきあう市政」を推進してまいります。

このため、まずは、大隅地域に共通する課題や、広域的な取組の現状や問題などをお聞きし、今後の取組等について、4市5町の首長で定期的に協議・意見交換を行い、共通認識のもとで、地域の一体的な発展を目指した取組を進めてまいりますと考えております。

そして4つ目は、これらの「対話」「改革」「挑戦」の取組により、市民が安全で安心に暮らせるとともに、住んでみたい、住んで良かったと思える、生き生きとした元気な「かのや」をつくるため、さらなる「飛躍」を目指してまいります。

以上、私の市政運営に關する所信の一端を述べさせていただきましたが、これまでにない、未曾有の厳しい時代の中で、鹿屋市の今後の発展のために、あらゆる分野の方々のご協力をい

ただきながら、市民総参加のもとで、市政を運営していかねばならないと考えております。

最後に、私は、市民の皆様、先頭に立ち、市民の皆様、英知と力をいただき、共に汗を流しながら、官民一体となつて、新しい力と新しい発想で、職員とともに、全力投球してまいりますので、議員の皆様と市民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、平成22年度の具体的な施策や事業については、6月議会定例会において、施政方針として述べてまいります。



◀ 2月5日、就任記者会見で報道機関のインタビューに応える嶋田芳博市長